

ロボット介護機器 導入施設

わかばの家

【施設概要】

運営法人: 社会福祉法人 睦月会

住所: 東京都国立市泉三丁目30番地の5

対象: 知的障害者

定員: 施設入所支援 45名

生活介護 57名

短期入所 4名



1 導入機器

分類	製品名	台数	導入の理由
見守り支援機器	眠りSCAN	15台	・デモ機で機能を比較した結果、既存のソフトと連携できることが判明した。 ・睡眠、呼吸回数、離床など多様なデータの取得が可能であり、支援員の負担軽減及び支援内容の充実が見込める。
	眠りSCAN-eye	15台	眠りSCANと連動し、居室内の様子をカメラで確認することで、適切に居室に行くことができるため。

2 実施体制

- ・ 施設長(プロジェクトリーダー)
- ・ 副施設長(アドバイザー)
- ・ 課長(進捗管理)
- ・ 係長(進捗管理補佐、主任補佐)
- ・ 主任(ユニット支援員への具体的な活用方法の周知)
- ・ 専門職(専門職の視点から効果的な実践アドバイス)

3 課題整理

- ・ てんかん発作による急変リスクのある利用者への対応
- ・ 頻回にトイレに起きる利用者の転倒リスクの対応
- ・ 居室内における利用者の転倒や急変のリスクへの対応
- ・ 重度の知的障害者の発作や体調把握
- ・ 状態像が変化していく利用者の情報更新と共有化

4 導入効果

- ・ ベッドセンサのモニター情報をカメラセンサの映像で補完でき、見守りの安心につながった。
- ・ 生活状況・睡眠状況の個別特性が把握でき、夜間、起床したタイミングでパッド交換を行う等の支援が行えるようになった。
- ・ 居室支援中、他の部屋で起きている事象等を把握可能になった(応援要請等も可能)。

5 課題と解決策

- ・ ベッドセンサの通知が頻回に起こり、訪室が増えた時期があり、アドバイザーを通じてメーカーと連携し、特性に合わせた通知設定を探った。
- ・ カメラセンサの活用に対するプライバシーを確保するため、居室にカーテンを取り付け必要に応じて開閉するようにした。